

令和 8 年 9 月 3 日
 子ども・若者部
 子ども・若者支援課

ユースカウンスル事業「第0期」による検討結果について

1 主旨

ユースカウンスル事業は、昨年7月から立ち上げ期となる「第0期」をスタートし、この間、参加メンバー自身が課題に感じた4つのテーマについて、各プロジェクトチーム（以下、「チーム」と言う。）による検討を進めてきた。先般、各チームにおいて検討結果を取りまとめたため、その内容を報告する。

2 ユースカウンスル事業の概要

（1）事業概要

「若者が変える！世田谷」をキャッチフレーズに、中学1年生から24歳の区内在住、在学、在勤の若者が、月一回の定例ミーティングや、テーマごとのプロジェクトチーム活動を通じて、若者自身が課題感をもったテーマや、区が提起したテーマについて若者主体で検討を行う。

（2）「第0期」の活動内容

今期は立ち上げ期であることから「第0期」に位置付け、他自治体の先進事例を学びながら活動の仕組みを整えるとともに、若者自身が課題に感じた4つのテーマや、区が提起した「(仮称) 世田谷地域青少年交流センター」の構想等について検討を行った。

①「第0期」メンバー構成（令和8年8月4日。検討結果報告・提言時点）

23名（中学生1名、高校生世代10名、大学生世代12名）

②活動期間

令和7年7月～令和8年8月まで

※別途、令和8年7月から、新たに「第1期」がスタートしている（メンバーは第0期からの継続13名と新規加入10名の計23名。）

③主な活動経過

令和7年6月 「第0期」のメンバー募集

7月～ 「第0期」開始

8月～ 若者自身が課題感をもったテーマに関する検討

9月 静岡県菊川市の先進的なユースカウンスル（まちづくり部）を視察

10月～12月 区が提起したテーマ（「(仮称) 世田谷地域青少年交流センター」の構想等）の検討

令和8年6月 区民まつりに出展

8月 区長及び関係各部に対する検討結果の報告・提言

(3)「第0期」の検討結果

各プロジェクトチーム（以下、「チーム」と言う。）が、関係所管へのヒアリングや、区民まつり等でのアンケート調査等を踏まえ、検討結果を取りまとめた。

令和8年8月4日に、各チームから区長及び関係各部に対して、検討結果の「報告」（3チーム）及び「提言」（1チーム）を行った。

※各チームが作成した資料は別添「発表スライド資料」のとおり。

①報告

■世田谷の魅力チーム

メンバー	2人（高校生世代2人）
経過	・世田谷には多種多様な魅力がありながら、「世田谷と言えば〇〇」というものが思いつかなかったことから、もっと世田谷の魅力について発信していきたいという動機に基づき活動開始。 ・広報広聴課にヒアリングを実施し、区のおしらせ、エフエム世田谷、SNSの活用など、区が実施している広報の現状に関する情報収集を実施。（令和8年1月7日） ・メンバーの一人がエフエム世田谷「区長の談話室」に出演し、自分たちの活動内容について発信を行う。（3月26日） ・区民まつりで、来場者から区内のおすすめスポットについてインタビュー調査を実施し、約300件の意見を聴取。（6月6日～7日）
報告 (要旨)	・活動を通じて若者に情報発信することの難しさを実感したことを踏まえ、中高生が知りたいと思っている情報を収集しデータベース化するなど、オンラインを活用した情報発信手法について引き続き検討を行っていく。

■若者の居場所チーム

メンバー	4人（中学生1人、高校生世代2人、大学生世代1人）
経過	・中高生はコミュニティや地域との関わりが少なく、地元気軽にいける居場所が足りないことから、地元の同年代の多様な仲間と出会える、若者による若者の居場所が必要という動機に基づき活動開始。 ・上北沢にある「長徳寺」の協力のもと、中高生の居場所の実証実験（たこ焼きパーティー）を実施。（5月27日。参加者5名）
報告 (要旨)	・居場所のニーズについて更なる検討をおこなうため、活動団体「よりみち」を新たに立ち上げ、「せたがや若者ファンディング」から助成を受けて、若者による若者のための居場所の運営を継続していく。 ・居場所の認知度向上に向け、若者に寄り添った広報についても検討を行う。

■男女共同参画チーム

メンバー	2人（高校生世代1人、大学生世代1人）
経過	・男女共同参画への社会全体の認知不足や、性的マイノリティ当事者が区立施設を使用する際の不安解消の必要性等についての課題意識に基づき活動開始。 ・人権・男女共同参画課にヒアリングを実施。（2月18日） ・他自治体の認証制度について調査し、比較検討を実施。
報告 （要旨）	・他自治体の制度も参考にしながら、性的マイノリティの理解に関する認証制度の構築の必要性について検討を行う。 ・認証制度や表彰制度は、その制度自体や取組みを実践する事業者を区民に分かるように伝える必要があることから、日常的な可視化の方法についても検討する。

②提言（子ども・若者部、道路・交通計画部への提言）

■交通問題チーム

メンバー	5人（高校生世代3人、大学生世代2人）
経過	・南北交通が不便、自転車走行の危険性、駐輪場の不便さ、交通費の負担など区内の交通に関して、若者自身が感じる課題意識に基づき活動開始。 ・交通政策課、及び交通安全自転車課にヒアリングを実施。（令和8年1月） ・区内の民間団体主催の公共交通に関するフォーラムに参加。（2月11日） ・町会主催の「さくらまつり」（4月4日・葭根公園（船橋6-21-1））でアンケートを実施。 ・3青少年交流センターでアンケート調査を実施し、105件の意見を聴取。（4月） ・「区民まつり」で、来場者にインタビュー調査を実施し、63件の意見を聴取。（6月6日～7日） ・中学生・高校生・大学生を対象にオンラインアンケートを実施し、190件の意見を聴取。（7月14日～26日）
提言 （要旨）	（i）若者向け公共交通機関の割引制度の導入 自ら実施したアンケート調査結果に基づく「交通費の負担が若者の行動を制限している」という考察をもとに、バスや鉄道の若者向け割引制度の導入についての提言。 （ii）交通政策に若者の声を反映するための仕組み 地域公共交通活性化協議会の区民委員に「若者枠」を設け、若者を参加しやすくするなど、若者の声を反映する仕組みに関する提言。 （iii）若者調査への交通に関する項目の追加 若者が直面している交通問題を把握し、深掘りするため、区が実施する若者調査に交通に関する項目を追加する提言。 （iv）自転車に関して 若者の声を聴く中で、自転車で車道を走ることへの不安感や、駐輪場の不便さを訴える声が多く挙がったことを踏まえ、自転車の安全・駐輪環境の改善を求める提言。

(4) 今後の対応等

- ・報告のあった3テーマについては、次期「第1期ユースカウンスル（令和8年7月～令和9年8月）」において若者主体の検討を継続していく。
- ・提言のあった1テーマについては、区がメンバーと引き続き対話をしながら、その政策的な効果や、他の取組みとの優先順位等を踏まえ、実現可能性等について検討を行う。検討結果を1年以内にメンバーにフィードバックする。

3 今後のスケジュール（予定）

～令和9年8月 第1期の活動継続

令和9年夏頃 第0期の提言に対する区の検討結果の回答

2026年08月04日
世田谷ユースカウンスル
説明資料

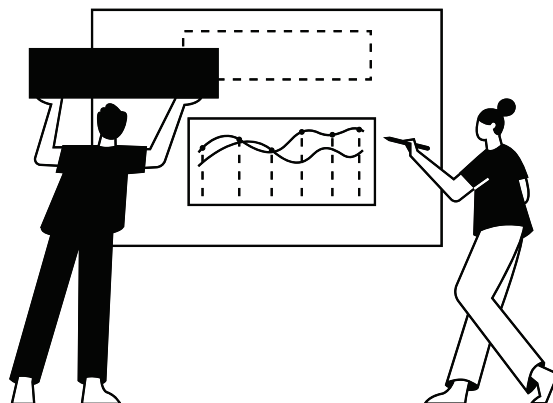
Progress Report 世田谷の魅力

私たちの活動について

世田谷魅力チーム0期生、田澤、荘林

目次

- ①きっかけ、活動の背景
- ②実際の活動報告
- ③活動を踏まえての結果、考察
- ④今後について



きっかけ

なぜ世田谷の魅力？

・世田谷といったら何？

→世田谷といえばというものが思いつかなかった。

・みんなの思う世田谷の魅力は？

→人によって多種多様な魅力が挙がった。

・まだ知られていない世田谷の魅力はもっとあると考えた

→もっと世田谷の魅力について発信していきたいと思った



進捗状況 (08月)

2026
08月まで

実施事項一覧

活動開始

世田谷の魅力発信のプロジェクトを始める

9月

区役所へ行き、広報広聴課の方とお話をした

実際どのような活動をしているのかをお伺う

1月

区民から魅力を他の区民へ伝える方針

どのように魅力を集めるかを考え

4月

ふるさとせたがや区民まつりにて実際に活動

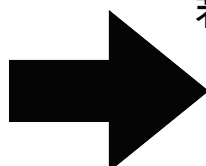
実際に区民の方から世田谷の魅力を集めた

6月

実際の活動

今年1月、区の広報広報課、ねつせたの担当の方にお話を伺った。

- 広報広報課は、広報誌、ホームページ、FMせたがやにおいて世田谷の情報を発信しているが、課題として広報誌は読んでいる人たちの割合が高齢者が多数を占めているため、若者の認知が少ないことであった。
- ねつせたは若者が若者向けにSNSを通して世田谷の魅力を発信しているが、十分に再生数は回っていないようだった。



若者に情報を発信することの
難しさを実感

実際の活動

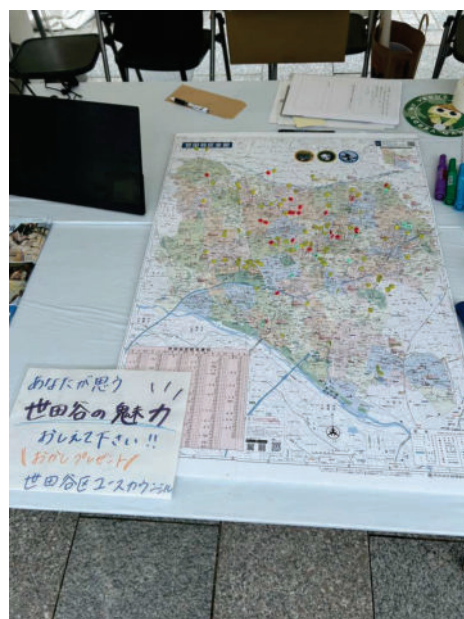
ふるさとせたがや区民まつりにてせたがやの魅力を集める

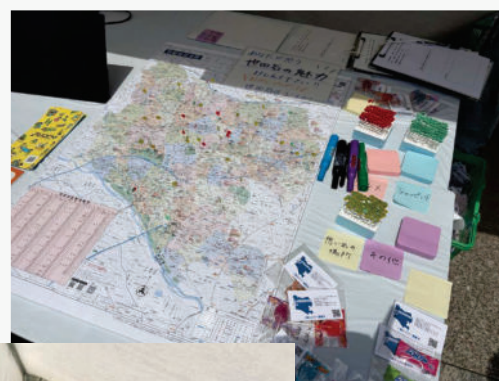
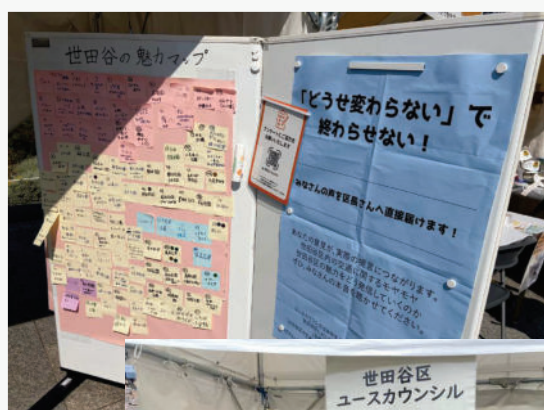
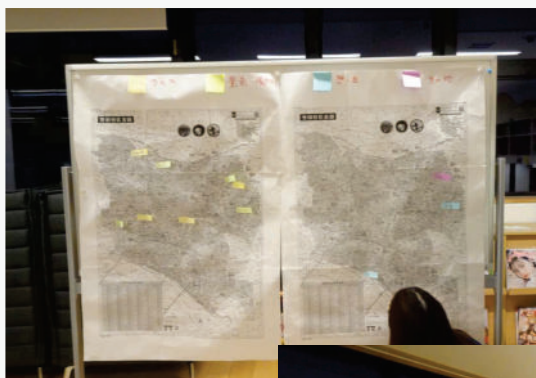
区民の方から区民の方へと魅力を相互発信する方針を決め

実際区民まつりでは、区民の方から区民の方が思う
世田谷の魅力を多く聞き出すことができた

やった活動：

- ・ 世田谷の地図をブースで出し、ピンで区民の方々が思う世田谷の魅力をさしてもらった
- ・ 年齢層としては主に小学生の子供たちと親の方々、そして高齢者に多く参加してもらった。小学生は公園など日常の遊び場、大人はグルメスポットなどを紹介してくれた。
- ・ あまり高校生や中学生の学生たちからの意見は伺えなかった





活動を踏まえての結果、考察

中高生の参加が少なかった

- 親子たちが考える世田谷の魅力や高齢者からの世田谷の魅力などが主だった

今の学生たちの考える世田谷の魅力を集められなかった

場所が被っていた

- 砧公園などのメジャーな場所が多くピンでマップに刺さっていた

もっと幅広く知られていなそうなところも知りたいと考えた

今後の活動について

データベースの作成

中高生向けのワークショップを実施して、中高生が知りたいと思っている情報を収集し、データベース化する。
ねつせたと連携し、ねつせたからの情報提供も検討する。

Decidimでのページ作成

作成したデータベースをDecidimに入力し、チャットボット機能をいかして中高生にとって便利な情報検索システムを構築する。
既存のSNSにはない機能を付加することで差別化を図る

Decidimの周知

既存のSNSと連携したり、中高生向けのワークショップを実施したりすることで、中高生に対してDecidimの周知を図る。

PDCAサイクル化

ワークショップの実施と、データベースの充実化を一つのサイクルにすることで、中高生にとって価値のあるプラットフォームを目指す。

補足ポイント

- 今後、中高生向けのワークショップをどのように実施するか検討する。
- この活動が中高生にとって価値のあるものになった場合、他の世代にも応用できないか検討する。



ご清聴ありがとう
ございました!

中高生による中高生のための居場所

ユースカウンスル0期
居場所チーム

今日の流れ

1. 活動の動機
2. 実証実験
3. 結果
4. 考察・感想
5. 今後について

活動の動機

コミュニティ、地域との関わり

- 学校がある地域との関わりが少ない
- 他地域では地域活動に対するサポートがあったが、世田谷ではあまり感じない
- 他区の中学・高校に行く子が増えていく
- 学校や既知ではない人との、地元でのつながり
- 地元の友人と繋がれる場
- 地元に戻ってきたときの安心感が増す

活動の動機

居場所

- 中高生の居場所が足りない
- 地元気軽に身近に行ける場所がない
- 一番安心している家から近い
- 家の外に居場所が欲しい人にもメリット

その他

- 学校の校則などについて一緒に考えてくれる仲間が欲しい
- 自分と似たような環境で生きてきた子たちと一緒にいることが増えるから、ランダムに多様な子と出会える環境があるといい
- 若者の犯罪への巻き込まれ率が下がる期待

活動の動機

➡ 若者による若者の居場所 が必要

実証実験（たこ焼きパーティーの実施）



緑丘中学校へのチラシの配布
アップスでのチラシ配布



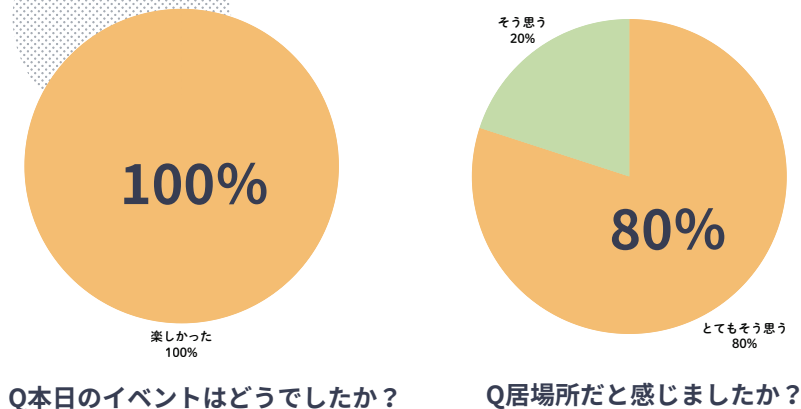
日時：2026/5/27(16時～20時)

場所：長徳寺

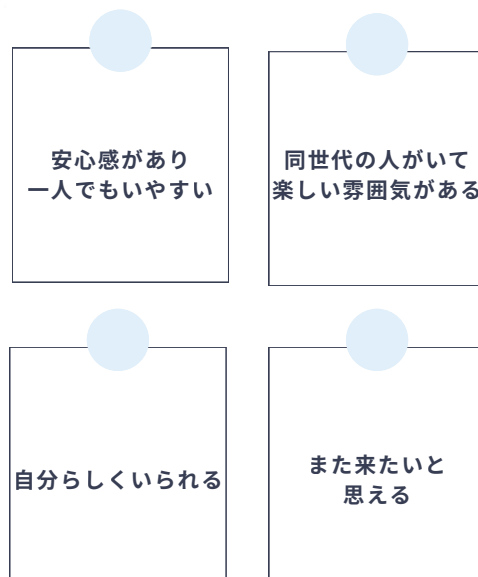
参加者：5名

結果

たこパ参加者へのアンケート実施



中高生が居場所に求める条件



企画を行なった私たちの感想

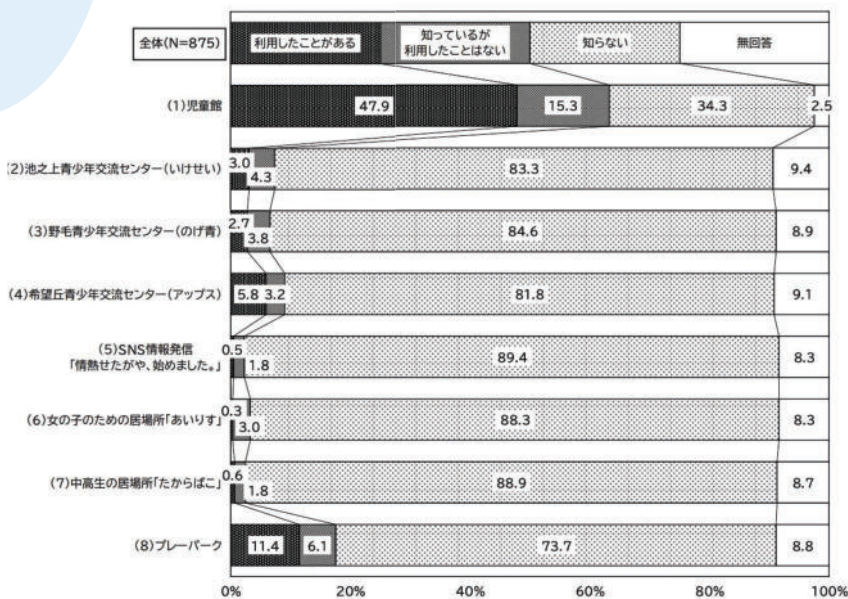
- 学校とは違い、居場所は年齢や価値観など多様性が担保された場所になる。
- 人生や、受験の話など深い話まで、同世代だからこそできる話ができた。
- 企画者も参加者も当事者であり、相互利益の関係が構築されている。

「若者の居場所」のニーズは大きい



考察

若者関連施設の利用状況(全体)



「若者の居場所」
のニーズは大きい

のに...

○活動の**認知度**が
低い
→広報でうまくアプローチ
できていない

令和6年世田谷区若者報告書より

今後の活動

1、「よりみち」

せたがや若者ファンディングから¥160,000程度の支援

▶ 季節ごとのイベントで継続的な居場所の提供

夏祭り、お月見、クリスマス、etc.

若者による若者のための居場所づくりを継続的に
— 安心感
— 共感性

今後の活動

2、広報

「よりみち」広報：
中学校、青少年交流センターへのチラシ配布

+

- 公式Instagram
- 公式TikTokアカウント作成

若者に寄り添った広報→居場所の認知度向上

今後の活動

3、政策提言

来年度の政策提言に向けて

実証実験、政策調査、関係する課へのヒアリング

今年度の報告→次年度へつなげる活動

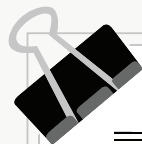


———— [REPORT] ————

世田谷区における 性的マイノリティに関する 理解促進・認知度向上

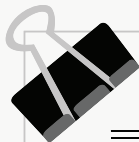
————

ユースカウンスル
男女共同参画プロジェクト



———— [目次] ————

- 01** プロジェクトのきっかけ
プロジェクトの目的と背景
- 02** 人権・男女共同参画課へのヒアリング
世田谷区の現状の理解
- 03** 他自治体の取り組み
提案のための模索
- 04** 提案と継続調査
0期のまとめと1期への展望



[プロジェクトのきっかけ]

背景と現状の課題

- 男女共同参画への認知不足
政策や取り組みについて、社会全体、世田谷区で認知の向上が必要
- 利用者の不安解消の必要性
性的マイノリティの当事者が、区立施設を「安心して利用できる環境」がまだ十分に整っていない



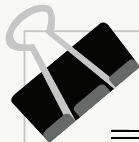
期待される成果



世田谷区パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓の周知



誰もが安心して利用できる区立施設



[人権・男女共同参画課へのヒアリング]

ヒアリングと追加質問の実施

- ヒアリング
人権・男女共同参画課へ現状の聞き取りをおこなった
- 追加質問
現状実施している男女共同参画についての表彰制度などについて



世田谷区の現状の理解



せつかくの制度が十分に周知できていない印象

[他自治体の取り組み]

他自治体の取り組みの調査

- ・ 埼玉県

レインボーカラーを活用したアライステッカーの配布

- ・ 淡路市

LGBTQ+フレンドリー事業所認定制度

- ・ 大阪市

LGBTリーディングカンパニー認証



ステッカーなどの活用による可視化



性的マイノリティに特化した認証制度

[提案と継続調査]

[提案：施設職員の理解促進と認証の仕組み]

職員研修の充実

施設職員の理解を深めるための研修の充実

認証制度の構築

認証制度を構築することで、より積極的な研修体制

日常的な可視化の重要性

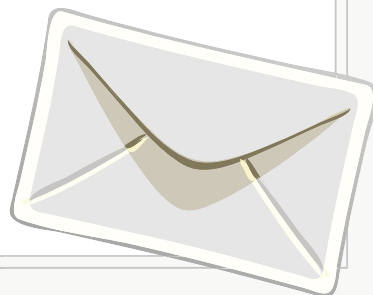
表彰制度や認証制度を可視化することで利用者への安心感を醸成する



＝ [ま と め] ＝

プロジェクトは0期から 1期に引き継がれます

これまでのプロジェクトの成果は、0期のメンバーから、1期のメンバーに引き継がれ、更に調査を進めた上で、男女共同参画の一層の推進のための提言をしたいと考えています。



2026年8月4日 ユースカウンスル最終発表会

ユースカウンスル0期 交通チーム



目次

1	課題認識と活動内容	p.3-5
2	調査の実施（アンケート・インタビュー）	p.6-9
3	調査結果からの考察	p.10
4	提言① （仮称） Seta MaaS の導入	p.11-19
5	提言②③④ 若者の声の反映と自転車施策	p.20-23
6	まとめ	p.24

活動当初の悩み

- ▶ 南北の交通が不便
- ▶ 自転車で走ると違法駐車している車があって怖い
- ▶ 駐輪場がいつも満車
- ▶ 駐輪場の値段が高い
- ▶ 中学生から大人料金は納得いかない

3

活動内容

- 1 世田谷区交通政策課にヒアリングを実施（1月5日、6月17日）
- 2 世田谷区交通安全自転車課に書面でヒアリングを実施
- 3 「世田谷地域課題研究フォーラム」に参加（2月11日）
- 4 区内3か所の青少年センターで予備調査と本調査を実施（4月4日-12日、7月14日-26日）
- 5 「せたがやふるさと区民まつり」でインタビュー実施（6月6日・7日）
- 6 前橋市交通政策課に書面でヒアリングを実施

4

気づき

交通政策が長期的な視野で策定されていると実感

一方で、若者はある程度の距離なら歩きや自転車を使うと

想定されていると知った

「世田谷地域課題研究フォーラム」に参加し、今後の人口減少時代を考えると公共交通機関の在り方が大きく変化していくと実感

→ 交通費の負担が若者の行動を制限している

5

予備調査（アンケート） 概要と結果

115 名の回答

期間

2026年4月6日から約10日間

方法

紙・Webアンケートフォーム

対象

世田谷区内外の小中高生・若者

交通費を負担に感じる

よくある たまにある
あまりない まったくない

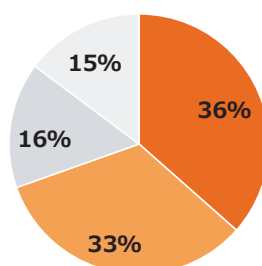


図1 交通費の負担感 [11]

交通費で外出を躊躇

よくある たまにある
あまりない まったくない

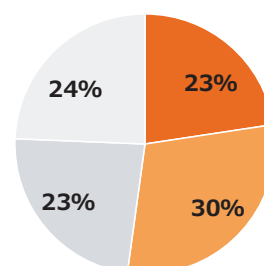


図2 外出を躊躇した経験 [11]

約7割が交通費を負担に感じ、
約5割が外出をためらった経験あり

6

区民まつりでのインタビュー調査

インタビュー調査

せたがやふるさと区民まつり（馬事公苑）
（2026年6月6～7日）／回答63名



図3 区民まつりインタビュー調査 [12]

70%

交通費を「負担に
感じる」と回答

過半数

交通費が理由で外出を
躊躇した経験あり

59件

バス・鉄道の学割を
求める声が最多

7

本調査（アンケート）

方法 Google Forms

対象 世田谷区内外の中学生・高校生・大学生

期間 2026年7月14日～26日

項目 交通費の負担感・外出行動

回答 **190名**（集計対象 179名／社会人11名を除く）

8

本調査— 結果

65.4%
交通費が外出に影響
課題に挙げた層 82.5%

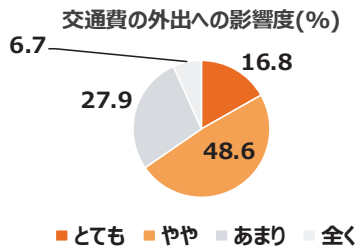


図4 交通費の外出への影響度 [13]

80.7%
バス運賃で利用を控えた
うち頻繁 57.4%

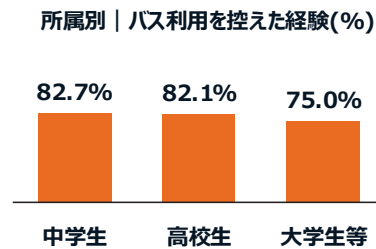


図5 所属別バス利用抑制 [13]

33.3%
お小遣いに占める交通費
高校生 37.5%

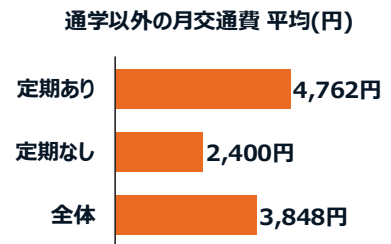


図6 通学以外の月交通費 [13]

9

調査結果からの考察

▶ 運賃負担で外出を躊躇する若者が多い

▶ → 電車・バスの割引制度が必要

▶ 節約のため自転車利用が増加 → 走行の不安・駐輪の不便

→ これらの課題をふまえ、4つの提言をまとめました

10

提言①

若者向け割引制度の新規導入 ※子ども・若者部に向けて

具体案（仮称） Seta MaaS

- ▶ 対象：区内在住・在学・在勤の若者 ※
- ▶ 内容：路線バス運賃を割引し、まずバス→段階的に電車へ拡大
- ▶ 仕組み：マイナンバーカード＋交通系ICカードで割引を自動適用。
区が割引額を事業者（バス・鉄道会社）に還元する。
- ▶ 進め方：土日・長期休みに実証実験を行い、効果を検証して本格導入
- ▶ 財源：対象や区間を絞れば全額負担も不可能ではない

※ 後述：段階4までにおける「若者の対象」は各年度末時点において13歳以上～22歳以下

11

提言①

（仮称） Seta MaaS の概要

対象範囲と補助の仕組み

- ▶ バス：乗降が区内のバス停なら対象
区外へ出ても運賃体系が変わらないため
- ▶ 電車：区内の駅のみ対象。通しで乗る場合は対象外
- ▶ 通学・通勤定期は補助の対象外
- ▶ 利用時に運賃から割引し、割引相当額を区が補填

※ 段階1の対象は区内在住・在学の中高生世代

※乗車時、区外の場合乗務員に伝えて割引してもらう必要あり

12

提言①

(仮称) Seta MaaS の目的と根拠

制度の目的

- ▶ 若者の移動支援による**教育・就労機会の拡大**
- ▶ 区内の公共交通の利用促進
- ▶ バス事業者の収入安定化（区が割引分を補填）
- ▶ マイナンバー×ICカード連携による**行政DXの推進**
- ▶ **自転車利用などによる交通事故の抑制**

根拠

- ▶ 前橋市の事例：交通事故の抑制、経済的負担の解消 [2]
- ▶ 本調査：お小遣いに占める交通費は中央値33.3%・平均49.0%（n=125）、南北移動はバス依存 [13]

13

提言①

(仮称) Seta MaaS の参考事例

参考事例：前橋市「路線バス若者割引サービス」

- ▶ 対象は13～22歳の市民。
- ▶ 市内の路線バス運賃を10%割引
- ▶ マイナンバーカード＋交通系ICカードで割引を自動適用
- ▶ 22歳以下は通学定期と同額の「市内共通定期券」（学生証不要）
- ▶ 利用データを交通計画づくりにも活用

出典：前橋市／群馬県 [2]

14

提言①

参考事例：神戸市

神戸市「高校生通学定期代の無償化」= 未来への投資

- ▶ 2024年9月～ 市内通学は**全額補助**／2025年度～ 市外は半額
- ▶ 背景：南北の乗り継ぎで通学費が**年間約25万円**の例も
- ▶ 令和8年度当初予算 **総額27.6億円**
(一般25.5億+ひとり親2.1億)
- ▶ 開始時は半年分 約12.3億円 → 年間約27.6億円規模へ
- ▶ 目的は若年層の市外流出の阻止と公共交通網の維持

出典：[5][6][7][8a]（詳細は手元資料）

15

詳しい割引段階



段階	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
割引率	1割引	5割引	5割引	5割引	無償化
対象	中高生世代	中高生世代	中学生以上 22歳以下	中学生以上 22歳以下	7～22歳
交通手段	バス	バス	バス	バス+電車	バス+電車

図7 （仮称）Seta MaaS 割引段階の設計（本団体作成）

※対象範囲：「在住・在学・在勤」

※段階2は小学生と同額

16

概算予算 シナリオ1：文科省の平均ベースで算出した場合

段階	対象	交通手段	割引率	年間概算費用	一般会計比
段階1	12～18歳	バス	1割引	約0.5億円	0.01%
段階2	12～18歳	バス	5割引	約2.6億円	0.06%
段階3	12～22歳	バス	5割引	約4.4億円	0.10%
段階4	12～22歳	バス+電車	5割引	約14.7億円	0.34%
段階5	7～22歳	バス+電車	無償化	約31.7億円	0.73%
共通	全段階	システム	—	初期 約3～5億円	約0.1%

表1 概算予算 シナリオ1：文科省の平均ベースで算出した場合 [4] [6]

- ▶ 交通費：文科省 学習費調査より平均 約3.2万円（うちバス3割＝仮定値）
小学生は小児運賃で年6,400円
- ▶ 在住：12～18歳 54,052人／12～22歳 91,976人（住基R8.7.1）／7～11歳 36,626人
- ▶ 区外からの通学流入（15歳以上の在学者・R2国勢調査）：約4.3万人 → 段階3で約+2.1億円
- ▶ 一般会計 4,313億5,300万円ベース／システム費 初期3～5億+運用 年0.3～0.5億円

17

概算予算 シナリオ2：運賃ベースの計算で週1往復を想定した場合

段階	対象	交通手段	割引率	年間概算費用	一般会計比
段階1	12～18歳	バス	1割引	約1.4億円	0.03%
段階2	12～18歳	バス	5割引	約7.0億円	0.16%
段階3	12～22歳	バス	5割引	約12.0億円	0.28%
段階4	12～22歳	バス+電車	5割引	約23.0億円	0.53%
段階5	7～22歳	バス+電車	無償化	約52.2億円	1.21%
共通	全段階	システム	—	初期 約3～5億円	約0.1%

表2 概算予算 シナリオ2：週1往復を想定した場合 [4] [6]

- ▶ 往復運賃：バス 500円（東急バス片道250円）／電車 460円（片道230円）／週1往復 × 52週／小学生は小児運賃 バス100円・電車230円
- ▶ 在住：12～18歳 54,052人／12～22歳 91,976人（住基R8.7.1）／7～11歳 36,626人
- ▶ 区外からの通学流入（15歳以上の在学者・R2国勢調査）：約4.3万人 → 段階3で約+5.6億円（同前提）
- ▶ 段階4・5はバス・電車を各週1往復／一般会計 4,313億5,300万円ベース

18

概算予算 シナリオ3：運賃ベースの計算で週2往復を想定した場合

段階	対象	交通手段	割引率	年間概算費用	一般会計比
段階1	12～18歳	バス	1割引	約2.8億円	0.07%
段階2	12～18歳	バス	5割引	約14.1億円	0.33%
段階3	12～22歳	バス	5割引	約23.9億円	0.55%
段階4	12～22歳	バス+電車	5割引	約45.9億円	1.06%
段階5	7～22歳	バス+電車	無償化	約104.4億円	2.42%
共通	全段階	システム	—	初期 約3～5億円	約0.1%

表3 概算予算 シナリオ3：週2往復を想定した場合 [4] [6]

- ▶ 往復運賃：バス 500円（東急バス片道250円）／電車 460円（片道230円）／週2往復 × 52週／小学生は小児運賃 バス100円・電車230円
- ▶ 在住：12～18歳 54,052人／12～22歳 91,976人（住基R8.7.1）／7～11歳 36,626人
- ▶ 区外からの通学流入（15歳以上の在学者・R2国勢調査）：約4.3万人 → 段階3で約+11.2億円（同前提）
- ▶ 段階4・5はバス・電車を各週2往復／一般会計 4,313億5,300万円ベース

19

シナリオ1の概算予算の根拠（計算方法・出典年度）

$$\begin{array}{c} \text{平均単価} \\ \text{約3.2万円/人} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{対象人数} \\ 5.4万 \sim 12.9万人 \end{array} \times \begin{array}{c} \text{手段按分} \\ \text{バス=3割} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{割引率} \\ 1 \sim 10割 \end{array} = \begin{array}{c} \text{年間費用} \\ \text{0.5} \sim 31.7億円 \end{array}$$

① 単価（交通費）

文科省 学習費調査
（令和5年度・最新）
公立中 6,911円/年
私立中 約8万円/年
→私立35%仮定の平均
約3.2万円

② 対象人数

住民基本台帳（令和8年7月1日）
在住 7～11歳 36,626人
在住 12～18歳 54,052人
在住 12～22歳 91,976人
区外 通学流入 約43,000人（別掲）
→ 在住 最大 約12.9万人

③ システム費

他自治体の同種事業を
参考に規模換算
初期 3～5億円
運用 年0.3～0.5億円
（初期の約1割）

- ▶ 検算例）段階2＝3.2万円 × 5.4万人 × バス3割 × 5割引 ≒ 約2.6億円
- ▶ バス3割＝通学交通費のうちバス分の仮定値。2～4割で段階1～3は±3割変動。段階4以降は按分なし
- ▶ 区外の通学流入 約4.3万人＝R2国勢調査（15歳以上の在学者）。22歳以下の内訳は非公表

20

シナリオ2・3の概算予算の根拠（運賃ベース）

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{往復運賃} \\ \hline \text{バス500円・電車460円} \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{対象人数} \\ \hline 5.4万 \sim 12.9万人 \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{週1} \sim 2 \text{往復} \\ \hline \times 52 \text{週} \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{割引率} \\ \hline 1 \sim 10 \text{割} \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{年間費用} \\ \hline 1.4 \sim 104 \text{億円} \end{array}$$

① 往復運賃

バス（京王）片道250円
→ 往復500円
電車（池尻大橋-二子玉川）230円
→ 往復460円
小学生は小児運賃
バス100円・電車230円

② 対象人数

住民基本台帳（令和8年7月1日）
在住 7～11歳 36,626人
在住 12～18歳 54,052人
在住 12～22歳 91,976人
区外 通学流入 約43,000人（別掲）
→ 在住 最大 約12.9万人

③ 往復回数

シナリオ2 = 週1往復
（年52往復）
シナリオ3 = 週2往復
（年104往復）
段階4・5はバス＋電車

- ▶ 検算例）段階1・シナリオ3 = 500円 × 104往復 × 54,052人 × 1割引 ≒ 約2.8億円
- ▶ 段階5は無償化のため割引率10割。7～11歳は小児運賃で別計算（週2往復で約12.6億円）
- ▶ 区外の通学流入 約43,000人は別掲。段階3でシナリオ2 約+5.6億円／シナリオ3 約+11.2億円

21

提言②

交通政策に若者の声を反映するための仕組み

- ▶ 地域公共交通活性化協議会の区民委員に「若者枠」を設け、
若者が参加しやすいようにしてほしい
例：ケニアやルワンダは若者クォーター制を導入している
→ その若者枠に、ユースカウンスルのメンバーが参加する
- ▶ 民間企業にも、若者の意見を届ける場がほしい
- ▶ 法律ではなくとも、参加を促すインセンティブを作る

22

アンケート・調査結果：若者調査(2023)

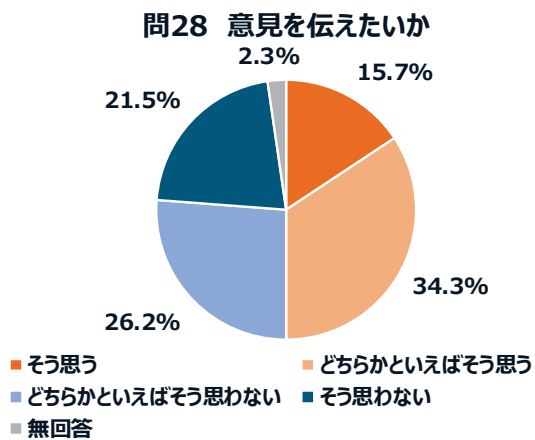


図8 若者の意見表明の意向 [1]

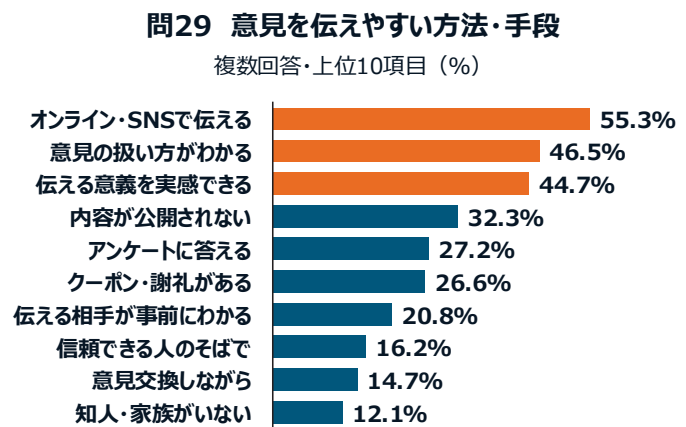


図9 意見を伝える手段の充足度 [1]

**意見を伝えたい若者は多いが、伝えやすい手段が不足。
→ この声を政策に反映する「若者枠」= 提言②へ**

23

提言③

若者調査に交通に関する項目の追加

交通の項目を加える理由

- ▶ 特に若者が直面する交通問題を深掘りするため
- ▶ ユースカウンスルだけでは把握しきれない実態を知るため

24

提言④

自転車に関して

本来は土木部・交通安全自転車課への提言だが、若者の声を聴く中で次の点が多く挙がった

- ▷ 自転車で車道を走ることへの不安感
- ▷ 駐輪場の不便さ

本調査：運賃で利用を控えた人の**49.6%**が自転車へ／**24.4%**は外出を断念（n=131）
→ 運賃負担は自転車利用を減らす

※ 区民まつり等で、若者から実際に聴いた声

25

まとめ

若者の声を起点に交通の課題を調査し、区へ4つの提言をまとめました。

提言①

（仮称）Seta MaaS の導入

効果：交通費を軽減しバス利用を後押し

→ 自転車の不安・事故の軽減にも期待

提言②

交通政策に若者の声を反映する制度

効果：当事者である若者の視点を政策へ

提言③

若者調査に交通の項目を追加

効果：ニーズを正確に把握

提言④

自転車の安全・駐輪環境の改善

効果：誰もが安全に移動できるまちへ

26

参考文献・出典

- [1] 世田谷区『若者調査』2023年
- [2] 前橋市／群馬県『GunMaaS』若者向け割引・市内共通定期券
- [4] 世田谷区 令和8年度当初予算（一般会計 4,314億円）
- [5] 神戸市『高校生通学定期券の補助制度』（2026.1.5更新）
- [6] 神戸市 高校生等通学定期券補助制度の予算資料
- [7] 神戸市『高校生定期の無償化に踏み切った理由』
- [8a] こどもっとKOBE『担当者に聞く』（乗り継ぎ・年間24万7,100円）
- [8b] こどもっとKOBE『母たちが本音でトーク！』（坂道15分）
- [8c] 神戸市『通学に係る燃料費相当額支給制度』（交通空白地域）

※ URL・最終アクセス日を含む完全な書誌情報は手元資料に記載

27

参考文献・出典

- [11] 自主アンケート調査①（n=115）
- [12] 区民まつりインタビュー（n=63）
- [13] 本調査（n=179）
- [14] 現場インタビュー調査 いずれも本団体実施
- [15] 前橋市より本団体の照会に対する回答をいただいた（2026年7月）

概算に用いた数値の根拠

一般会計：令和8年度当初予算 4,314億円 [4] 通学費：文科省調査 [3]
 神戸市：令和8年度当初予算 総額27.6億円（一般25.5億＋ひとり親2.1億） [6]
 神戸市：通学費 年間約24万7,100円の事例、坂道15分の負担 [8a][8b]
 システム費：他自治体の同種事業を参考に算出（詳細は口頭で説明）

28



ご清聴ありがとうございました